



2007年11月25日

いま起きつつあること…

高橋哲哉さんの
平和講演会から

いま
私たちの国は
どこに向かっているのか①

神学社会委員会では、10月13日、高橋哲哉先生を講師としてお招きして平和講演会を開催しました。高橋先生は東京大学大学院教授で、哲学者として政治・社会・歴史に諸問題を研究し、人々の痛みに立って積極的に発言をされている方です。

戦争に向かっている日本

高橋先生は「この国はどこに向かっているのか」という

テーマに、冒頭から「戦争に向かっている」と、はっきり話されました。政府が、「国のために命を捧げることを尊い」とする思想を今なお浸透させようとしていること、それと同時に、戦時中の日本軍に対するイメージを悪くするような教科書の記述を削除するために、なりふりかまわず腐心している様子を指摘されました。

「命」そのものを、国家のものとする、あるいは天皇のものとする教育から日本が戦争に向かったのであり、そのような教育が今なお繰り返されつつあるということ、さまざまな資料をもって論証されました。

沖縄戦・集団自決の教科書記述の削除問題

沖縄戦の「集団自決」への日本軍の強制などの記述が修正・削除された問題で、9月

29日、沖縄では11万人もの方が集まり県民集会が行われ、県民の怒りが頂点に達しました。

高橋先生は、『「集団自決」という言葉は、教科書にそのまま残し、『軍の強制はなかった』として、住民が自ら死を選びとったかのような記述に書き換えられたことは、集団自決によって『殉死』という意味合いを残し、軍の関与を否定することに目的がある』と指摘されました。

日本軍の命令・関与により起こった集団自決という悲惨を極める出来事は、今なお生々しい記憶として沖縄の方々の心に刻まれています。今の時代に、なぜこれほど執拗に歴史を歪曲することが必要なのでしょうか。

「うそを真実と言わないで」と、沖縄の高校生が集会で訴えました。教科書で史実が改ざんされようとしていること

に、沖縄の人々は大きな危機感を持っています。

戦争の悲劇を繰り返さないために、今、私たちは、この沖縄の方々の証言に対して、責任をもって向き合わなければなりません。教科書の改ざんは、現在起こっていることなのです。それは沖縄の方々の心を再び踏みにじることであるとともに、軍はいざというとき、民衆を見捨てるものだという歴史的教訓をも消し去ることなのです。

同じ過ちを再び繰り返さないために、歴史の真実を追い続けなければならないことを高橋先生のお話から深く学ぶことができました。

